

## 4. 新聞等に掲載された活動

### ○放射線リスク制御部門放射線分子疫学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
	ロシアの医師ら 被ばく治療研修	長崎新聞	2014年 7月18日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会が招聘したロシアなど3カ国の医師らが田上長崎市長を訪問し、研修開始を報告した。
	永井平和賞に丹羽氏	朝日新聞 長崎新聞 読売新聞	2014年 11月11日	第10回永井隆平和記念・長崎賞に、福島県立医大特命教授で京大名誉教授の丹羽大貴氏が選ばれた。

### ○放射線リスク制御部門国際保健医療福祉学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	川内村復興に力を注ぐ長崎大の福島支援の現状	長崎新聞	2014年3月9日	「復興のモデルケース」として、自治体と専門家が一緒になって復興を進める一つの形が出来つつあると示した。
高村 昇・教授	川内村復興に力を注ぐ長崎大の福島支援の現状	長崎新聞	2014年3月10日	帰村に向け、復興を担う人材育成が重要であると、教育分野にも着手し「復興子ども教室」をスタートさせた。
高村 昇・教授	川内村復興に力を注ぐ長崎大の福島支援の現状	長崎新聞	2014年3月11日	高村教授、折田助教の川内村での活動と、長崎大が支援を続ける意義や今後の展開について長崎大川内村学長が述べた。
高村 昇・教授	福島県川内村に放射性物質測定の高性能機器を導入	長崎新聞	2014年3月27日	より迅速な測定で機能強化につなげたいとコメントした。
高村 昇・教授	アジサイ 20鉢を川内村に寄贈	長崎新聞	2014年5月1日	市民団体「太鼓山（コッコデショ）応援団」高橋会長よりアジサイを受け取った。
高村 昇・教授	川内村のキノコの放射性セシウム濃度の測定結果	長崎新聞	2014年6月2日	研究グループが長崎市内での原子爆弾後障害研究会にて結果報告を行った。
高村 昇・教授	川内村と長崎ネット中継	福島民報	2014年6月21日	川内村と長崎市をインターネット中継で繋ぎ、長崎市民に川内村の現状を報告した。
高村 昇・教授	川内村と長崎ネット中継	長崎新聞	2014年7月9日	放射線に関する評価の結果を川内村村民に報告
高村 昇・教授	川内村検証委員会が中間答申	日本経済新聞	2014年8月6日	避難指示解除は妥当とコメントした。
高村 昇・教授	川内村、近く国と協議	福島民報	2014年8月6日	避難指示解除準備区域の解除時期についてコメントした。
高村 昇・教授	福島の復興大使が長崎大学を訪問	読売新聞	2014年8月19日	長崎大学を訪問した、ふくしま復興大使の中高生への対応をした。
高村 昇・教授	福島の復興大使が長崎大学を訪問	長崎新聞	2014年8月19日	長崎大学を訪問した、ふくしま復興大使の中高生への対応をした。
高村 昇・教授	福島の復興大使が長崎大学を訪問	西日本新聞	2014年8月19日	長崎大学へ訪問したふくしま復興大使の中高生への対応をした。

高村 昇・教授	福島復興大使が長崎大学を訪問	福島民報	2014年8月19日	長崎大学へ訪問したふくしま復興大使の中高生への対応をした。
高村 昇・教授	高齢化する被爆者への健康管理	長崎新聞	2014年9月1日	高齢の被爆者の健康管理についてコメントした。
高村 昇・教授	長崎大の歩みと福島県支援活動	福島民報	2014年9月9日	原爆の悲惨な体験、チェルノブイリでの医療活動の経験を、福島の為に活用していくとコメントした。

### ○放射線リスク制御部門放射線災害医療学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	長崎大、福島復興へ新組織「未来創造センター」	読売新聞 毎日新聞 長崎新聞 西日本新聞 日本経済新聞	2014年 5月2日	東京電力福島第一原発事故からの復興を進める福島県を健康、医療、福祉、教育面から支援する新組織「福島未来創造支援研究センター」センター長として記者会見
山下俊一・教授	福島で甲状腺がん検診	日本経済新聞(電子版)	2014年 5月12日	福島県での子どもたちを対象にした大規模な甲状腺検診制度の立ち上げについて
山下俊一・教授	首相、福島で医大視察	福島民報 福島民友	2014年 5月17日	安倍首相は福島医大で、菊地理事長や山下俊一副学長らから県民の健康状態を聞き取り、甲状腺検査の模擬検査の様子を見学した。
山下俊一・教授	「核心」課題抱えた甲状腺検診	日本経済新聞	2014年 5月26日	福島県が公表した甲状腺検診の結果について
	ロシアの医師ら 被ばく治療研修	長崎新聞	2014年 7月18日	長崎・ヒバクシャ医療国際協会が招聘したロシアなど3カ国の医師らが田上長崎市長を訪問し、研修開始を報告した。
山下俊一・教授	福島県の「ふくしま復興大使」長崎大訪問	西日本新聞 長崎新聞 読売新聞	2014年 8月19日	被爆地長崎の復興や、放射線医学の取組みについて説明した。
山下俊一・教授	福島国際会議「放射線と健康リスクを超えて」総合討論や現状報告	福島民報	2014年 9月10日	専門家会議終了後、「放射線の直接的な健康影響は考えにくい」と語った。
山下俊一・教授	どうする 被曝と健康	朝日新聞	2014年 10月3日	県民健康調査について 目的や枠組み見直し議論して軌道修正を
	永井平和賞に丹羽氏	朝日新聞 長崎新聞 読売新聞	2014年 11月11日	第10回永井隆平和記念・長崎賞に、福島県立医大特命教授で京大名誉教授の丹羽大貴氏が選ばれた。
山下俊一・教授	復興への対策探る 市民公開講座で講演	福島民友 福島民報	2014年 11月23日	「福島原発事故と健康リスク管理」と題し講演、県民健康調査など福島県の取組みについて説明した。

○原爆・ヒバクシャ医療部門血液内科学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮崎泰司・教授 田口 潤・助教 他	医療ルネッサンス No. 5739, No. 5740 白血病ウイルス	読売新聞 (全国版)	2014年 1月21日, 1月22日	HTLV-1 ウイルス感染によって発症する成人T細胞白血病(ATL)についての説明、母乳による母子感染の説明。また造血幹細胞移植による治療などを説明。(白血病ウイルス5回シリーズのうち2回掲載)
宮崎泰司・教授他	移植適応 MM 標準治療を 考えるー診療ガイドラインを ふまえてー	日経メディカル オンライン	2014年6月	新薬製剤の登場による治療法の多様性が進む中、移植適応のある多様性骨髄腫の治療はどうあるべきか。日本血液学会の造血器腫瘍診療ガイドラインにおける推奨と臨床での活かし方について、寛解導入療法、移植、移植後の地固め・維持療法等を中心に同ガイドラインを作成に携わった先生方をはじめとする専門医の方々にご検討いただいた。

○原爆・ヒバクシャ医療部門腫瘍・診断病理学

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
七條和子・助教	DVD	新日本映画社	2014年 7月26日	夏の祈り:ナガサキー自らの体験を劇にして上演する被爆高齢者たちの老人ホームに迫った唯一、「最後」のドキュメンタリー
七條和子・助教	新聞	毎日新聞	2014年 10月7日	平和をたずねて:被爆者が死して残した臓器標本は放射線の脅威を今も問う